

平成27年度実施事業調査シート

■ 基本事項(事業の位置づけ)

No. 2	項目名	防災対策費			主要な施策の 成果 ページ	91	担当 部署	総合政策部 危機管理課
予算 科目	会計	1	一般会計		総合 計画 体系	分野	防犯・防災	
	款	9	消防費			基本方針	災害に強いまちづくり	
	項	1	消防費			施策	地域防災体制・基盤の強化	
	目	4	防災諸費		当初予算における区分	新規施策・拡大施策・ <b>重点施策</b> ・その他		
事務事業	375	防災対策費		↑ 該当するものを○で囲んでください				

■ 事業概要(実施内容)

事業の背景	東日本大震災や阪神・淡路大震災の経験から、自分の命は自分で守る「自助」、自分たちのまちは自分たちで守るとい「共助」、公的機関の役割である「公助」がバランス良く機能することの重要性が再認識された。
事業の対象	主に市民
事業の目的	各家庭の自助、地域の助け合いである共助、行政や警察・消防など公的機関の公助が一体となった地域防災体制の充実を図る。
事業の内容 (取り組み)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老上西小学校の開校に合わせて備蓄倉庫を整備</li> <li>・避難所のプライバシー確保のためのクイックパーテーションを全小学校に2基ずつ整備</li> <li>・屋外スピーカーで放送した内容を再度確認することのできる自動応答システムを導入</li> </ul>

■ 予算・決算状況

	当初予算の状況					決算の状況・実績				
内訳・詳細	備蓄倉庫備品等購入費9,210千円 クイックパーテーション購入費1,361千円 屋外スピーカー電話応答システム導入費1,178千円					備蓄倉庫備品等購入費7,527千円 クイックパーテーション購入費1,225千円 屋外スピーカー電話応答システム導入費461千円				
事業費(千円)	合計	国県	市債	その他	一般財源	合計	国県	市債	その他	一般財源
予算・決算額	11,749	4,915	0	108	6,726	9,213	757	0	108	8,348
前年度比	-					-				
◆「当初予算額」と「決算額」の増減理由(事業の進捗状況等)	競争入札による実績が減額となった。									
◆平成26年度事業費(千円)	合計	国県	市債	その他	一般財源	合計	国県	市債	その他	一般財源
	0				0	0				0

■ 事業所管部署による評価

	評価	項目	評価の理由・評価に関する説明
必要性	4	市民ニーズが高い	いつ発生するか分からない大災害に備え、備蓄品、情報伝達機能の充実強化は急務である。
	4	市の他の政策よりも優先的に実施すべきである	
	3	対象および内容が類似する事業がない	
妥当性	1	法令により実施することが義務付けられている	避難所の備蓄倉庫や情報伝達設備の充実強化は公助の範囲であり、行政の役割である。
	3	法令に定められた市の責務を具現化して実施する事業である	
	3	上位計画に明確に事業が位置づけられている	
	3	国・県・民間の類似サービスと重複していない	
	4	市民の基本的生活の維持・確保に必要な事業、または内部事務である	
効率性	3	他の手法に比べて効率のよい事業手法である	老上西小学校の備蓄倉庫については市内の既存の備蓄倉庫と同様に整備した。いずれも競争入札によりコスト削減を行っている。
	4	コスト削減の余地はない	
	3	受益者一人当たりのコストは適正である	
	3	受益者負担や補助の割合に問題はない	
継続性	4	事業を継続することで、さらなる効果が見込まれる	備蓄倉庫や情報伝達機能を充実させることで、市内の防災力の向上が図れる。
	4	所期の目的を達成しておらず、引き続き実施する必要がある	
	4	社会状況の変化に対応した事業内容である	
成果	4	当該年度の事業目的を達成できた	整備した備品や機能は今後、市民に周知を図っていく。
	3	受益者の評価が得られている	
	3	費用対効果大きい	

↑ 次の4段階により該当する数値を記入してください。

(4.よく当てはまる。3.およそ当てはまる。2.あまり当てはまらない。1.ほとんど当てはまらない。)

■ 事業実施効果および課題、将来展望

事業実施効果	備蓄品の強化については、クイックパーテーションを整備することで東日本大震災で問題となった避難所での女性のプライバシー確保が図れ、老上西小学校の備蓄品を整備することによって、防災拠点の一つ増え、防災力が強化された。 屋外スピーカーの電話自動応答システムは、屋内では聞こえにくい屋外スピーカーの放送機能を補完するものとなった。					
事業に対する市民の意見、反応	電話自動応答システムを導入したことについて、市民の方から、多様な情報入手ができるようになったというご意見をいただいている。					
事業の今後の課題、将来展望	防災拠点となる避難所の備蓄品を今後も充実させていくことで、災害に対する体制強化を図る。また、多様な情報入手手段を整備していくことで、市全体に情報が行き渡るよう構築していきたいと考えている。					
※平成28年度の 予算措置	予算額 (千円)	合計	国県	市債	その他	一般財源
		0				0
	27年度比 積算根拠	0%				

※ 当該事業が平成27年度に終了した場合は、当該事業に代わって措置した予算や関連予算を記載してください。